

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520226

研究課題名(和文) 岩国市に伝存する吉川家由来書を中心とした古典籍についての調査研究

研究課題名(英文) A Study of Japanese Classical Books with a Focus on the Materials Formerly Belonging to the Kikkawa Family Preserved in Iwakuni City.

研究代表者

妹尾 好信 (Senoo, Yoshinobu)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：10171357

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：山口県岩国市に伝存する明治以前の古典籍を閲覧調査し、書誌情報を目録化・データベース化することによって、学界および一般社会に情報を公開するとともに、旧岩国藩主吉川家の学問・教養のレベルの高さと、その特色を明らかにするための基礎資料を提供した。調査対象としたのは、岩国市中央図書館が所蔵する和装図書と岩国徴古館が所蔵する吉川家寄贈図書類である。前者については紙媒体による蔵書目録を作成し、後者については岩国徴古館が運営する「収蔵資料検索システム」に情報を載せて公開している。

研究成果の概要(英文)： We have investigated classical books dating from before the Meiji period which are preserved in Iwakuni city in Yamaguchi prefecture. The collected information is integrated into a database and catalogues, and it is open to the public. In this study, we have provided the basic materials to reveal the high level of education and the some other characteristics of the Kikkawa family, the former feudal lords of Iwakuni.

The research data is taken from Japanese-style books owned by Iwakuni Central Library and books donated by the Kikkawa family in Iwakuni Chokokan Museum. The information obtained from the former is available for readers to browse in the form of catalogues on paper, and that from the latter is in the database service provided by Iwakuni Chokokan Museum.

研究分野：日本文学

キーワード：書誌学 岩国市 吉川家

1. 研究開始当初の背景

吉川氏 6 万石の城下町である山口県岩国市には、藩政時代から伝わる数々の古文書や古典籍が残されている。そのうち藩主である吉川家に伝来した古典籍は、主要なものは財団法人吉川報効会が運営する吉川史料館が所蔵しているが、大半は市立岩国徴古館に寄贈され、まとめて保管されている。また、藩校養老館の旧蔵書や、明治期以来の学校の蔵書は、旧岩国図書館の流れを汲む岩国市中央図書館の蔵書となっている。旧岩国図書館には戦前・戦中に市内の旧家や名土の家から多数の蔵書が寄贈されており、その中には藩政時代に書写・刊行された和漢の古書が少なからず含まれている。

このように、岩国市に伝存する古典籍類はいくつもの施設に分かれて所蔵されており、それらの存在は知られているものの、いまだ総合的な書誌調査は行われておらず、その全容が把握されているわけではないのが実情である。

吉川史料館・岩国徴古館・岩国市中央図書館の3施設について、施設の概要と所蔵する古典籍類の目録刊行状況を略述すると、次のようである。

(1)吉川史料館 吉川家に伝来した歴史資料や美術工芸品など約 7000 点を収蔵するという。そのうち約 2500 点が文書・典籍などの歴史資料であるとされるが、ほとんどは古文書の類で、書物としての古典籍は多くない。しかしながら、戦前に重要美術品に指定されたものや、戦後に重要文化財の指定を受けたものなど、貴重な文化財が含まれている。『源氏物語』『吾妻鏡』『太平記』など、国文学研究の分野においても重要な資料があり、それらはつとに学界に知られるところとなっていて、研究がなされてもいる。山口県教育委員会が昭和 59 年に刊行した『吉川家歴史資料目録』(山口県歴史資料調査報告書第三集)には、436 点の書跡・典籍類が掲げられ、そのうち特に重要なものについては、調査者の熊本守雄氏により簡略な解題が記されている。ただし、書物よりも和歌懐紙・短冊・軸物などの一枚物が断然多い。

(2)岩国徴古館 戦時中に吉川報効会が設立した博物館で、後に岩国市へ寄付・移管されて市立の収蔵・展示施設となった。

中心となるのは昭和 19 年に吉川家から寄付された郷土関係の美術工芸品ならびに歴史資料である。郷土出身者の手になる絵画や書跡、古文書、工芸品などとともに、書物・典籍も含まれる。岩国藩域における歴史資料の宝庫としてつとに知られるところである。平成 8 年になって『岩国徴古館資料目録』が刊行されて、所蔵資料の全容が知られるようになった。それによれば、漢籍 347 点、和古書 349 点、合計 696 点の書物が収載されてい

るが、その後も受贈・購入により収蔵品の数は増加しているという。

これら「岩国徴古館資料」とは別に、昭和 33 年に吉川家から寄託され、平成 3 年に寄贈された藩政期の歴史資料および図書類があつて、平成 4 年に『吉川家寄贈図書類目録』が刊行されている。それによれば、明治期以降に刊行された図書も含めて 2871 点が収載されている。

上記 2 種の目録により、岩国徴古館が所蔵する和漢古典籍の総体はほぼ明らかであるが、書物以外のさまざまな文物を所有する博物館が作製した目録ゆえ、書物としての書誌情報は非常に簡略で十分なものではなく、分類も書物の内容に照らして厳密なものとは言えない。

(3)岩国市中央図書館 平成 6 年、南岩国に開館した中央図書館は、かつての岩国の中心地錦見地区にあった旧岩国図書館の後身である。藩校養老館の旧蔵書の一部や、明治以来の学校蔵書を受け継いでいる他、大正から昭和戦前・戦中にかけて在地の旧家や岩国出身の名土らから寄贈を受けた図書類を多く所蔵する。それらのうち和漢の古書類約 1600 点は「和装図書」として別置保管されている。NDC による分類番号が付されて整理され、台帳として手書きの目録が作られていて、近年その目録の情報をエクセルデータとして電子化するところまでの作業が図書館内でなされている。しかしながらそこに記された書誌情報は、編著者、刊行・書写年、冊数のみのごく簡素なものに過ぎず、それを見て本の内容や状態を詳しく知ることはできない。

吉川史料館と岩国徴古館は博物館であるから、そこに収蔵された資料は書籍であっても古文書の一種として扱われる。一方、中央図書館では図書として登録されるが、基本的に洋装の一般図書と同様の扱いを受ける。和本の後見返し、刊記のある部分にポケットがつけられて貸し出しカードが入れているのもそのことを如実に表している。いずれにせよ、和漢古典籍の分類法に基づく整理と詳細な書誌データの作成は行われていない状況なのである。

なお、吉川史料館、岩国徴古館、岩国市中央図書館とも、すでに国文学研究資料館による文献資料調査が行われており、収集されたデータは、同館の「古典籍総合目録データベース」や「国文学調査データベース」などに反映されている。しかしながら、同館の資料によれば、吉川史料館(吉川家蔵本)は 188 点、岩国徴古館は 1180 点(うち約半数は簡略なカードによる調査)、岩国市中央図書館は 138 点に過ぎない。徴古館蔵書の半数以下、中央図書館蔵書に至っては 1 割にも満たない調査にとどまり、近年は調査が行われていない。

これら3施設が所蔵する古典籍を総合的に調査し、統一的な書誌データを作成することは、藩政時代から明治の開化期に至る岩国の学問や文化の実態を明らかにし、地方の小藩（岩国は明治維新まで正式な藩として認められていなかった）における文化・教養レベルの高さを知るための重要な資料になると考えられる。それが、本研究の必要性を感じるに至った背景であり、動機である。

2. 研究の目的

本研究は、岩国市に伝存する古典籍類を主に国文学研究の立場からできる限り悉皆調査し、書誌情報を収集・整理して、分類目録ないしデータベースの形で公開することを目的とするものである。それによって、旧岩国藩主吉川家の学問・教養のレベルの高さ、また藩内の文化・教育行政の特色などを明らかにするための手がかりとなる資料を提供したいと思う。そして、その成果は、岩国藩のみならず、山陽・瀬戸内沿岸地域の文化史・文化交流史を研究するための基礎資料としても利用・活用が期待される。

3. 研究の方法

本研究は、基本的に次の2段階から成る。

- (1) 所蔵先に出向いて行う閲覧調査による書誌データ収集
- (2) 分類目録の原稿作成

閲覧調査は、公刊された目録のない岩国市中央図書館から行った。今回の科学研究費補助金の交付が認められる前年の平成22年秋から先行して始めた。台帳に従い、1点ずつ閲覧して書誌データをカードに記入した。カードは、国文学研究資料館の文献資料調査用書目カードの様式を用いた。研究期間が始まる平成23年4月までに約150点の調査カードを作成した。

補助金による研究期間が始まると、閲覧調査に研究補助者として大学院生を1～2名同行し、調査済みカードのデータをエクセルファイルに入力してもらいながら、カードによる調査を続けた。入力作業を現地で行ったのは、現物と照らし合わせて調査データの確認作業を行うためである。

約1650点の閲覧調査を一通り終えたのは、研究期間3年目の平成25年6月であった。当初の予定では2年以内に終わるつもりであったが、台帳にない未整理の和装図書が新たに数十点発見されたためにやや時間がかかってしまった。

調査データの整理と目録化の作業も順次行い、平成24年3月から、勤務先で刊行している『内海文化研究紀要』にNDC分類の類ごとに分載する形で、目録の掲載を始めた。中央図書館の調査が一通り終わると、すぐ

に岩国徴古館の調査を始めた。同館では、公刊した2種の目録に載るデータを電子化してデータベースとし、ウェブサイト上で「収蔵資料検索システム」を運営している。今回の調査では、そのデータを収めたエクセルファイルの提供を受け、調査で新たに得られた書誌データを追加・修正して上書きしていくという方法をとることにした。もとのデータはかなり簡略なもので、設定された項目にも空白が多い。その空白を埋めていくのが主な作業となった。もともと博物館である徴古館の種々の収蔵資料を表示するためのシステムなので、典籍の書誌データを載せるにはそぐわない部分もあるが、調査の済んだものから順次このデータベースに上書きして更新していけば、すぐに成果を公開でき、一般の利用に供することが可能になるので、このシステムを利用することにしたのである。したがって、徴古館での調査は紙のカードを使わず直接エクセルファイルに入力するという方法をとった。調査の能率をあげるために研究補助者として大学院生を常に1名は同行し、調査で得られた書誌情報を口頭で伝え、入力してもらおうという作業形態で行った。

調査は『吉川家寄贈図書類目録』を台帳とし、「収蔵資料検索システム」データベースの第18類「和歌・俳諧」、第19類「紀行文その他」から始めた。研究代表者の専門であり、最も関心のある文学書から始めたからである。その後、第17類「謡・能楽」、第16類「雑書」と文学周辺の書物へと進み、次いで第5類「兵書・軍書・物語の類」、第6類「故事・考古」へと移り、以後、第15類「群書類従」、第14類「芸能・その他」、第13類「宗教」、第12類「衛生」、第11類「漢学・書画」と、類を逆進する形で進めた。

前述の通り、既存の書誌データはごく簡略で項目に空白が多いのだが、単に項目を埋めるだけでなく、なるべく詳しい情報を「資料解説」の項目に記載することにした。

目録やデータベースの書目認定通りにいかない場合もままあった。複数の書目一つにまとめられていたり、軍書の類には書物とは言えないような雑多な資料が一括して1点とされていたりもして、処理に窮することが少なからずあった。そのため、当初の思惑通りのテンポで進めることはできなかったが、4年間の研究期間で、文学書をはじめ、人文・社会学関係書についてはほぼ調査を終えることができた。

今後も継続して調査を行いたいだが、岩国徴古館所蔵の資料については、中央図書館の蔵書のように紙媒体による分類目録の作成は当面行わず、調査研究の成果は「収蔵資料検索システム」上で公開することとする。

4. 研究成果

- (1) 岩国市中央図書館の和装図書について
早くに調査を終えた岩国市中央図書館の

和装図書については、調査で得られた書誌データを登録番号順に従って目録の形に整理・編集し、研究代表者が勤務する広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設が毎年刊行している『内海文化研究紀要』に分類して発表した。第1回は平成24年3月刊行の第40号で、NDC分類0類「総記」と1類「哲学」、第2回は平成25年3月刊行の第41号で、2類「歴史」、第3回は平成26年3月刊行の第42号で、3類「社会科学」、4類「自然科学」、5類「技術・工学」、6類「産業」、第4回は平成27年3月刊行の第43号で、7類「芸術」、8類「言語」である。4年間の研究期間内にここまで4回にわたって調査研究の成果を発表した。残すところは9類「文学」のみであるが、文学関係書は非常に点数が多く、約400点もあるので、あと2回に分載して発表の予定である。このように分載して発表することになったのは、ひとえに掲載誌の投稿規定で1回の分量に制限があることによる。そのため研究期間内に全部を発表できなかったのは残念であるが、すでに準備はできているので、平成28年3月刊行予定の第44号と平成29年3月刊行予定の第45号に掲載して完結する見込みである。図書館によれば、既発表分の目録を見て閲覧の申し入れをする向きが時々あるとのこと、すでに情報公開の効果が現れているようである。分載の完結後は、全体を統合し、和古書の分類法に従って再編成し、書名索引を付した分類目録の作成をめざしたい。

なお、目録掲載に際しては、単なる書誌情報だけではなく、巻頭に資料群全体を見通した解説文を記した。第1回は岩国の市立図書館の沿革について、第2回は主な和装図書寄贈者の顔ぶれについて、第3回は藩校養老館から昭和戦前までの岩国の学校の変遷について、第4回は岩国藩の国学者上林諸史とその周辺人物の旧蔵・書き入れ本について。これら解説文の執筆にあたっては、和装図書に捺されている蔵書印を手がかりとすることが多く、調査終了後も何度か図書館を訪れ、旧蔵印の撮影と収集にあたった。第3回と第4回には末尾に蔵書印の陰影集成も付した。これらも今後の研究に大いに役立つ資料であると考えられる。

岩国市中央図書館所蔵の和装図書資料のうち、天保7年の写本『巖嶋大明神御縁記』に関して、全文の翻刻と解題を、研究代表者が所属する「広島大学 世界遺産巖嶋 内海の歴史と文化プロジェクト研究センター」の研究結果報告書『巖嶋研究』第8号(平成24年3月)に発表した。巖嶋神社の由来を記す『巖嶋縁起』の1伝本として貴重であると判断したためである。今後も、機会があれば重要な資料については翻刻や解題の形で学界に紹介していきたいと思う。

(2)岩国徴古館の「吉川家寄贈図書類」について

岩国徴古館が所蔵する「吉川家寄贈図書類」に関する調査研究の成果は、順次、同館のウェブサイト上で運営されている「収蔵資料検索システム」に掲載することで公開している。調査済みデータは同館の担当者(学芸員)に渡して更新を依頼しているが、平成27年5月時点では、まだ文学とその周辺の書の一部しか更新されていない。すでに登録されている書目データに対して、新たに書目を追加したり分割したりしたことがあるため、更新にはやや技術的な困難が伴うのだそうである。しかし、近いうちに克服して更新したいとのことである。

前述の通り、徴古館の資料に関しては、データベース上の「資料解説」の項目になるべく詳細な情報を記すよう努めた。それによってさまざまな興味深いことが見えてきた。

たとえば、岩国藩の著名な学者宇都宮遯庵とその子圭斎に関わる書物、特にその草稿本の多さである。文学に長じ儒学を講じた遯庵、伊藤仁斎に学んで古学を修めた圭斎、そしてその周辺人物らの学問を研究する上で欠かせない資料群と言えよう。

また、軍学書の多彩さは特筆に値する。圧倒的に多いのは、塩屋多次郎(森脇良材)の書写になる資料である。福岡の著名な軍学者高西成資に師事して武田兵法を学び、数々の秘伝を受けて帰郷した彼が岩国の軍学の発展に大きな貢献をしたであろうことは、残された諸資料から容易に想像される。『甲陽軍鑑』関連の書物類をはじめ、地図や絵図の類、免許状、草稿・書き付けに至るまでさまざまな資料が現存しているのである。軍学史の専門家にとってはまさに垂涎の貴重資料であるに違いない。

諸芸で言えば、茶道書とりわけ裏千家流の作法書が多いのも目を引く。

「吉川家寄贈図書類」は文字通り藩主吉川家に伝わった書籍類であるが、藩主家のみならず多くの藩士たちがいそしんだ諸学芸の実態を伝える資料が豊富に残されている。それは、ひとえに吉川家の学芸・文化・教養のレベルの高さを如実に物語るものである。

今回の調査研究によって、岩国市に残された各種古典籍が詳しい書誌データを伴って学界や一般社会に紹介されたことで、吉川家の歴史、岩国藩の文化史、ひいては近世の学芸史研究など、種々の研究に大いに資することが期待されるのである。

今後は、今回の研究期間で調査しきれなかった徴古館の資料、特に膨大な数の漢籍や自然科学書の類をも継続的に調査して、ゆくゆくはデータベースとしての提供のみならず、和古書の分類法に従った分類目録を作成したいと思う。そして、岩国市中央図書館の調査データや、まだ手をつけられていない吉川史料館や岩国学校教育資料館の蔵書をも悉皆調査して、岩国市に伝存する古典籍の総合目録を作成したいと願っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

1. 妹尾好信, 岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿(4) 芸術、言語の部, 内海文化研究紀要, 第 43 号, 査読無, 2015, pp19-44
2. 妹尾好信, 岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿(3) 社会科学、自然科学、技術・工学、産業の部, 内海文化研究紀要, 第 42 号, 査読無, 2014, pp1-24
3. 妹尾好信, 岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿(2) 歴史の部, 内海文化研究紀要, 第 41 号, 査読無, 2013, pp43-69
4. 妹尾好信, 岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿(1) 総記、哲学の部, 内海文化研究紀要, 第 40 号, 査読無, 2012, pp1-26
5. 妹尾好信, 岩国市中央図書館蔵『巖嶋大明神御縁起』翻刻と解題, 巖島研究, 第 8 号, 査読無, 2012, pp14-26

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

・岩国徴古館収蔵資料検索システム URL
<http://www.city.iwakuni.yamaguchi.jp/html/bunkazai/museum/chokokan/search/>

・『中国新聞』平成 27 年 2 月 10 日付夕刊「でるた」欄に、「後世に伝えたい和古書」という題のコラムを執筆し、本研究について紹介

した(執筆者 妹尾好信)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

妹尾 好信 (SEN00, Yoshinobu)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10171357